

さとうせいぞうし まえくぼ し はか 砂糖製造師「前窪」氏の墓

分類：有形文化財

町選定文化財

本村浜の山の墓地（大前）にあります。前窪氏は、文政10年（1827）、松寿院が島主と藩主の許可を得て、種子島で初めて砂糖の製造を始めるにあたり、徳之島から製糖技師として招いた人です。その功績は高く認められ、種子島家譜に「米1石を西之村本因寺の番僧に与ふ。砂糖製師範徳之島の前窪、西之村に於いて病死す。其の喪祭石碑等の費用を償はんが為なり」「米2斗を西之村の土民孫兵衛の後室に与ふ。砂糖製師範徳之島の前窪、病んで床に臥してより死に至るまで、常に側に在りて篤（とく）誼（ぎ）を尽すを以てなり」等の記述があります。

前窪氏が導入した前窪式甘蔗（かんしょ）圧搾機（あさくき）は檜木で作った牛車で、牛に引かせて廻したので牛車ともいいました。朝、寅の刻（午前6時）から酉の刻（午後6時）までかかって搾り、汁1石5斗（約270ℓ）を5つの鍋で煮詰めて作りました。砂糖は、椎の木製の樽に120斤（約72kg）詰めとして島主の倉庫に全部収納し、それから鹿児島経由で大阪へ送られました。島民の使用は一切禁止され、これに反すると厳罰に処され、協力すると表彰されたといえます。

前窪氏は徳之島には帰らず、天保2年（1831）1月に西之村で病死しました。



砂糖製造師前窪氏の墓